

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第4回観光振興ビジョン策定検討委員会
2. 開 催 日 時	平成29年12月13日(水) 午前10時~午後12時
3. 開 催 場 所	松阪市役所5階左第一会議室
4. 出席者氏名	(委 員) ◎ 川口正人、○ 竹川博子、吉田悦之、竹川裕久、 矢吹誠志、木村秀之 (◎委員長 ○副委員長) (事務局) 柳瀬勝久、長谷川浩司、和氣清章 近田弘之、田中新也、八橋友香
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	2人
7. 担 当	松阪市産業文化部観光交流課 TFL 0598-53-4196 FAX 0598-22-0003 e-mail kank.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

1. 委嘱状の交付について
2. 新ビジョンの最終案について
3. その他(観光交流拠点施設本館の名称について)

議事録

別紙

第4回松阪市観光振興ビジョン策定検討委員会 議事録

○日 時：平成29年12月13日（水） 午前10時00分～午後12時00分

○場 所：松阪市役所 5階左第一会議室

○出席者：（外部委員）

竹川博子、川口正人、吉田悦之、竹川裕久、、下釜恭道、木村秀之
（庁内関係課長等＝事務局）

長谷川浩司、和氣清章、柳瀬勝久、近田弘之

○事務局：観光交流課 田中新也、八橋友香

～開会～

（1）委嘱状の交付について

（2）新ビジョンの最終案について

（3）その他（観光交流拠点施設の名称について）

事務局：失礼致します。それでは定刻になりましたので第4回松阪市観光振興ビジョン策定検討委員会を開催致します。お忙しい中ご出席頂きましてありがとうございます。当委員会は公開とさせて頂いております。本日は傍聴の方が1名来ていらっしゃいますのでよろしくお願い致します。配布資料の確認をさせて頂きます。事項書がございます。それから策定委員会の委員名簿、観光交流拠点施設本館の施設名称について、すべて1枚ものです。カラー刷りの松阪市観光振興ビジョンの最終案ですね、よろしかったでしょうか。それでは事項書の1番でございます。委嘱状の交付でございます。配布いたしました名簿のとおり、近鉄さんの方で先日組織内異動ということで、委員さんの交代がございます。下釜恭道様に委嘱をさせて頂くということで、参事の方から委嘱状を交付致します。よろしくお願い致します。

委嘱状交付

委員：下釜と申します。当初参加させて頂いて、矢吹が異動になりましたので、返り咲きという形になりますけれども、どうぞよろしくお願い致します。

事務局：ありがとうございました。それでは事項の2でございます。川口委員長に進行よろしく申し上げます

委員長：それではみなさん、よろしくお願い致します。それでは議題に入らせてもらいます。下釜委員またよろしくお願い致します。それでは事項書の2番の新ビジョンの最終案について、というところございますが、過去委員会3回やって頂き今回で4回目、3月で5回目が最後、過去3回で皆さまに頂いた意見に対して旧ビジョンの課題とか、中止とかそれぞれみなさんに言って頂いたものを今日のカラー刷りのものに事務局のほうで修正とか加筆とかして頂きました。それをビジョンに反映させて最終案ということで、今日資料として提出して頂いております。事務局の方で説明頂いて、長い文章でいろいろありますので、各章ごとで事務局に説明頂き、皆さまに修正箇所の確認や表現などのご意見を頂きます。これが最終案ですので、最終の確認

っていうふうなことでご意見などご確認を頂きたい。修正とか加筆した部分は見て頂くとわかりますようにその部分が赤字で示されています。それでは、章ごとにと
いうことで、まず第一章は簡単な部分ですが事務局の方でご説明をお願いします。

事務局：第1章1ページ、観光振興ビジョンの策定について、①策定の背景と目的でございます。赤字が前回と比べて修正させて頂いたところでございまして、前回委員会でもご指摘頂きました始まりでございます。松阪市は、戦国武将・蒲生氏郷によって開かれた城下町を中心とし、三重県のほぼ中央に位置し、東は伊勢湾、西は高見山地まで広大な地域を持つまちです。という始まりにさせて頂き、城下町を紹介させて頂いたあとにですね、橿田川流域というようなところで、射和の商人の邸宅、あるいは中山間地域という流れで説明させて頂いておる次第です。東部一帯の平野部では格子戸のまちなみや、武四郎の関係の説明、あるいは、地形と気候を活かした特産品という流れでこちらは変更させて頂いております。右側の2ページですが、ご承知のように年号が変更になるということで、平成31年の5月1日から変更になるということで、西暦と平成の年号を並列で、ということにしましたが、今後、全庁的な流れの中で表現方法は統一的な見解があると思いますので基本的には並列の形で文章のところは併記をさせて頂く予定です。しかし、2ページの下の方のところは、このまま平成で書かせて頂こうと考えております。第1章はここまでです。

委員長：細かくて申し訳ないんですが、1章は、策定の背景と目的というところをこの間、いろいろご意見を頂いたので修正したというところなんです。確認は位置づけと計画ということで、このビジョンは計画というのは平成30年から平成32年ということで、また事務局からお話ありましたが、元号の表現の問題はまた改めてということでございます。そういったところですので、こちらはどちらかというところ右側の位置づけと計画期間というのは特にそういった数字の面だと思っておりますので策定の背景と目的の部分ですが、特にご意見いかがですか。修正とかあれば。竹川専務どうでしょうか。ご意見頂いたので。

委員：ざっと読ませていただき、このような感じかなと。

委員：内容的にはいいんですが、ただ東部一帯の平野部ではというところからここで改行されてますよね、さらに、そして東部一帯のところからまた豊かな地形と温暖な気候を活かしてというふうになっていくと、本来ならこれは南部、東部、そして豊かな地形と温暖な気候となっていくはずなんで、気になるといえば気になる、なんで東部で牛やらお茶やらってなるのかな、と。本当は改行してもらいたいかなと思います。それかもうさらに、っていうのを全部続けてしまうふうに、このページにおさまらないということだったら、要は松阪の売りということでしたら、城下町が1つと、橿田川水系と、三雲嬉野っていうこの3本柱プラス松阪の地形を活かしたお茶やら肉やらがあるということですから、4つ柱があるんだから4つに分けた方がいいのでは、というふうに思う。ただ、非常に些細なことですから。

委員長：事務局のほうでまた改行などして頂いて。よろしいですか。また章ごとでいき最後に全体での意見を頂きます。2章の方に行きたいと思っております。説明お願い致します。

事務局：3、4ページをお願い致します。3ページ第2章。観光振興に向けた取り組み、松阪市の観光の現状というところで、入込客数の状況と傾向を図で載せさせております。図1がテーマ別の入込客数ということで、テーマが下に書かれておまして、右の各調査地点を左側のテーマでくくり、テーマの色ごとの年度別の推移というところになっております。説明としましては、図1については全体としてはやや増加傾向。公園や飯高駅、茶倉駅などの物産、体験施設が大半を占める中で、祭りやイベントあるいは歴史文化施設を訪れる観光客が増加傾向にある、という説明です。各調査地点の地点別の、ここを前回でもご指摘頂きましたエリアとジャンルで固めた格好で入込客推計書を出させて頂いております。枠の関係で平成22年から28年というくくりで出させて頂いております。

事務局：続きまして5、6ページ。これまでの取り組みというところなんです。5ページの一番

下のところに、豪商のまち松阪活き活きプラン2を策定、を入れさせて頂いております。6ページには今回のビジョンの策定の経緯、内容を入れさせて頂き、このように写真・画像も差し入れております。

7, 8ページをお願いします。8ページのところが大幅に修正をさせて頂いたところがございます。時間もございますが、ご覧のような修正というところがございます。こちら先ほどの1ページと同様に地域・エリア別に表現をしたところが新しいところかなと思います。

9, 10ページをお願い致します。観光環境における課題の観光客をもてなす環境整備の充実ということございまして、9ページには観光交流拠点施設の整備の文言、あるいは10ページには既存の交通を利用した観光ルートの提案、というような文言を入れさせて頂いております。ちょっとすべてまた確認をさせて頂かなくはないかもしれませんが、10ページの上段よりちょっと上の、さらに、で始まっているところの、受入体制の体制は状態の態に、勢いという字に訂正させて頂きたいと思っております。

11, 12ページをお願いします。こちら情報発信ということございまして、国内のみでなく国外も意識して、ということに訂正を加えております。

4)の交流活性化における課題についても、中国無錫市濱湖区のところが表現を一部訂正しております。13ページの松阪経営文化セミナーのところが表現も一部修正させて頂いております。第2章は以上でございます。

委員長：ありがとうございます。第2章は今説明頂いた3ページから13ページまででございます。こちらの方、当日の資料配布しておりますので、細かい部分を見て頂くのは難しいかと思うんですけど、記入もれとか表現などの問題でご指摘とかご意見あれば言って頂きたいと思っております。実際に進んでおりますのでどのページのどの箇所化とか具体的に言って頂きたいです。赤で修正した部分というのが皆さんに意見を頂いて修正した部分ですのでこちらを重点的に見て頂ければと思います。

委員：3ページ4ページなんですけど、まず3ページあまりにもゼロの羅列が多すぎて、単位千人とか万人で表現された方がすっきりするのと、せっかく3を色別にされているので4の方もそれに対応して、3だと細かいのがわかりませんよね、例えば、3の青の部分が、4ページのどこにあたるのか対比して見れるようにしたい方がみやすいと思うんです。

委員長：せっかく4ページを分けてもらってたんでね。特に6ページ目なんかも今回の策定についてということですので。特にその濱湖区との交流であったりとか、経営文化セミナーとか付け加えて頂いているので、このあたりは網羅されているのかと思いますけど。細かいことですが、4ページ目の入込客数の推計書のところ、下に余裕があるので若干、行間をぎりぎりまで、これも見やすさだけのことですが。

委員：12ページの市町村とか、海外の友好都市は全部これで網羅されているのですかね。ホイアン市などって書いてあるので、他にもあるのかなと思ってしまったんですけど、これで全部網羅されているならいいんですけど。

事務局：正直言いましてこの縁、という範囲の中で示させているので、ホイアンであれば観光交流協定を締結していますし、島根県浜田市であれば観光・文化交流協定というのを結んでいるんですが、日野・会津若松は縁ネットワークというのを締結しているんですが、それ以外のところは交流というような位置づけの中で、明確な締結をしていないところもありますので、ここではぼやっというところと交流しています、というくらいのかたちで。などってというのが確かに言われるように、海外で言うとそれ以外の都市で交流があるのかということ、どこまでかっているのは非常に難しい話になってあまりないのかなと。一度来られたことがあるとか、何かの大会で来られたという範囲までいけば、などができてくるのですが。

委員：明確に結んでいるのがホイアンとこの中国のここだけ。

事務局：あと島根県浜田市であるとか、日野、会津若松、という形。あとは和歌山街道沿いのネットワークというのもありますけど。特に浜松市であったり、北海道の各市は、

松浦武四郎の関係で交流はあってもきちんとした締結があるというわけではないので。正確に言えば海外はホイアンと中国無錫。

委員：難しいですね、表現が。

事務局：ぼやっと書いているので、つながりって意味の中で、締結まで至ってない交流も含めているので。

委員：それは前半に入って、締結しているのが下に入るってということですね。

事務局：特に例えば名寄市なんかは、ここに書いて頂いておるんですが、今年もお聞きしている範囲では、松浦武四郎まつりにお越し頂くと聞いてますので、そういう意味で交流はあるんですが締結という形には至っていない。

委員：松阪市は、そのあとずっと町名がでてきて、町名があります、って松阪市はあります、っておかしくないですか。松阪市のたとえば交流都市にはこういうところがありますってような。

事務局：文章はまたなおさせていただきます。などの交流のかたちがありますとか、都市がありますという書き方に。

委員：2個しかないのであれば、ホイアン市とはこういう協定を、中国のことは友好都市を締結、と書いちゃってもいいのでは。

事務局：また修正したものを送付させて頂くというかたちをとらせて頂きます。

委員長：8ページのあたり、一番修正しているところですが、このへん竹川専務、吉田館長は？

委員：8ページの真ん中の郊外のところ、嬉野、三雲で発掘された土器とか、嬉野の、倉庫状態ですよ、あれはすごいので少しふれては？嬉野地域は地域特産品だけではなくて、どこへ入れるかですが。

委員：ゴルフ場などのレジャー施設が存在しており、の前に特産品はいいんですが、数多くの古代の遺跡やとか、天白遺跡など数多くの遺跡や、とでもいれるかですね。確かに天白やら大きな鷗尾やら今はあまり言われなくてもやっぱり、このあたりは和氣さんの方が専門だから何か適切な文言を入れて頂いた方がおもしろいと思いますけどね。

事務局：それを入れてまた。

委員：櫛田川水系にはあまり遺跡はないけど、嬉野の方はざくざく。

委員：櫛田水系も一万数千年前のサヌカイトの道ですから。文化が交流しているような。

委員長：あまり旧松阪の人は知らないですけど。ちゃんと記念館の方に置いてありますからね。

委員：この前県内の遺跡を調べている方に聞いたら、三重県内というのはサヌカイトってあまり出ないんですか？チャートとか黒曜石は出るけれどサヌカイトって意外と。

事務局：縄文の中期以降はすべてサヌカイトです。

委員：そうですか。サヌカイトって出るわけですね。

委員：出るってというのは出土するってということ。

事務局：北勢の方はチャートや下呂石。特に津以南はすべてサヌカイト。

事務局：春から夏にかけて潮干狩りを楽しむ人でにぎわう五主海岸、とありますけど、五主海岸はあさが採れない状況ですけども。時期にもよりますが、漁業組合が入場に関して貝取りを取行するときもあるんですがここ何年、あさりの不漁で、実際には潮干狩りはあまりやらないように思うんですけど。以前はかなりありましたが。いますかね？

委員長：3年間生きてくるわけですのでね。

事務局：観光で位置づけるのであれば、何らかの潮干狩りっていうかたちのものがいきてないとまずいのかと思うんですが。松名瀬などはないなりにもあるかと、五主海岸は昔は有名だったが。採れる時期もあるんですけど。時期というか年。

委員：松名瀬も全然で。協会にもガンガン問合せは来るんやけど、ダメなんですわって言いようがない。

- 委員：書かん方がいいでしょうね。書いてあったら、行ってとれなかったら。
- 委員長：ではこれは削除しておくということで。
- 委員：五主の干潟って、割と世界の中でもあれだけ干潟が残っているのはすごく優秀だって言われているので、逆に干潟をメインにしといた方が。
- 委員長：では、潮干狩りっていうより自然観察みたいな。
- 委員：あそこも池周辺が、今ソーラーパネルになっていて、そこへ来るときには景観上問題ではないかと。あえて来てもらうための五主海岸という位置づけができてるかどうかっていうのは、見られて池一面にソーラーパネルが貼られているという現状がある中で、観光地として適切なのかというのをお話して頂いた方がよいのでは。海岸はそういう位置づけで書いてもらった方がいいのかもしれない。
- 委員長：五主と特化せず。そうすると一方郊外で、っていうことになっているので、書くところの場所が変わってくということになるのでは。あ、松名瀬郊外ですね。
- 事務局：その下の飯高、飯南のところで、宿泊施設の中に、道の駅飯高駅、道の駅茶倉駅、が入っているのですが、宿泊施設ではないので、かっこのくくりを変えたり、宿泊施設等とするとか。
- 事務局：レジャー施設、宿泊施設のくくりになっているわけで。
- 事務局：中黒にするとか。
- 事務局：逆に道の駅を先に持ってきたほうが。
- 事務局：分けましょうか。レジャーと。
- 委員長：表裏的に道の駅が宿泊施設じゃないと分かりやすい表現にしとかなければいけませんよね。
- 事務局：中黒で順番を入れ替えるというかたちでわかりやすいように。
- 事務局：道の駅って、すごい人なんですね。松阪のベルファームに続いて集客力があるんですね。
- 委員：PRの効果が、三重県と奈良県が県境でピシッと分かれてしまっている。うちの地図は向こうが白紙、向こうの地図は三重県側が白紙だし、この前奈良県に行って話たんですが、県境を挟んで両方が提示してあるものを作ってもらうのが必要ですよ、と向こうの職員と話したんですけど。この間言わせてもらいましたが、あそこへお客をもっと今以上に入れようと思うと、166号を通って奈良県側からたくさん人に来ていただく、その情報を提供していく、というのがひとつの課題ですよ。
- 委員：冗談だと思って聞いてたんですけど、飯高の道の駅まで来て、関西のお客さんは帰られるそうですね。この先にまちがあるとは知らなかったという。最初は冗談だと思った。でもかなり、あそこまでは来る。あと、ツーリングの人たちがかなり寄るんで。寄ることは寄る。本当にあそこで何かをPRできたら、もうちょっと関西方面からもっとお客さんをよびこめる。あと何分で松阪まで行けるとか。
- 委員：さっきの話冗談半分ですけど、ここから先は怖くて行けやん、情報が入ってこないからとこの先何があるんだとか、たとえば神宮の方へ向いていくにはどう行ったらいいのか、とか松阪に行ったら何があるんだとか、いう情報が入ってこない、さっきの話、そこでUターンしてしまう。
- 委員長：誘導すべきですね。
- 委員：逆にそれが成功すれば、かなり誘客が今以上に見込める。
- 事務局：368号線はそのまま多気に抜けてきますよね。
- 委員：ナビで調べると、みんな多気へ抜ける道を誘導しますね。奈良県と三重県の情報のやりとりはもっと考えていかなくては。要するにテレビ局の関係が、三重県は名古屋キー局で、奈良に行くに関西。逆に言うと、ありがたいことに関西圏で松阪とか伊勢神宮を撮られた番組が放送されている。我々は見ることができないのでなんか最近お客さんちょっと多いよな、って聞くと一週間前に松阪を撮られた番組があるので来てみたんですわ、っていうお客さんがみえるんです。どういうふうな番組が放送されているかすらも、こっち側に住んでいるとわからない。

委員：昨日は吉本が来てた？

委員：そうですか、僕知らない。そういう情報は国内のメディアさんは自分らで交渉して自分らでやってかれるので、協会も全然知らないうちに済んでいたり、放送されるのも知らんうちに過ぎていたり、っていうのがあって、パッと見ると駅前で撮影しているという、なんやろなって聞きに行ったりっていうのがよくあるパターンです。

委員長：関西方面はこちらも放送してないからわからないですよ。

委員：東京なんかもあるでしょう。テレビ東京なんかよく来て、放送して、聞くとこのエリアは放送されないのごめんなさい、なんて言われてっていうのが時々あります。来て頂くのはありがたい訳で、もう少しこちらから能動的に働きかけられるとおもしろい。

委員長：そういう意味で近鉄さんにいろいろプロモーションやって頂けているんで。現在は関西からこっちっていう誘客はやっぱり。

委員：エリアキャンペーンを松阪市さんでやらせて頂いたときは、うち、通年で伊勢志摩にボリュームかけて宣伝しているんですけど、やっぱり地域的に近いですから、あわせてPRすることなので、組んで乗車券などはそういうかたちで増産しているので、PRして頂いて、関西の方でも鉄道の路線というところでは認識して頂いているかなと思います。

委員長：どうでしょう。まだ3章、4章ありますので。

委員：6ページの、真ん中あたり消してありますが、これがないとこの節、文章の主語と述語の関係がわからない。このような中改定したものです、何を？ってなるんです。ですから、これは消してはだめですよ。逆に消すのなら、このような中を消して、今回の本ビジョンの改定はこれを改定したものです、とか。

委員長：このような中を消して、今回の本ビジョンの改定はと。

事務局：その横の5ページのところなんですけど、豪商のまち松阪活き活きプラン、策定という格好になっているが、法的な決定について策定を使わせて頂いていますが、作成の方がいいのでは、というところはもう少し検討させて頂きたい。今年度、都市計画の方で作らせてもらった中心市街地土地利用計画においての中心市街地の長期的なプランも計画も策定させて頂いておりますので、8ページの豪商のまちのあたりでそういう計画に合わせて松阪市も取り組まさせて頂いているんだということも、もし中に入れて頂けるのであれば検討させて頂きたい。

委員長：土地利用計画も出ているので、それも入れてはということですね。あとよろしいでしょうか。先ほどの話、最後のところでも言いますので。そしたら3章の方へ行きたいと思います。3章の方、まず事務局説明をお願いします。

事務局：3章ですね、松阪市観光振興ビジョン14ページでございます。当初の委員会の方で、基本コンセプトはそのまま変えずに、概要は3の戦略展開と推進もそのまま、というところでこちらはそのままでございます。めくって頂きまして15、16ページですが、ビジョンの3本柱と戦略というのもそのままございまして、具体的戦略の方がちょっと修正が入っております。経営文化セミナーの開催については、主にまた、というところ、東京以外のところでもセミナーを開催していくというのを入れさせて頂いております。それから2番目の方、黒丸のところにおきましては、生誕200年を迎えるということで、武四郎のコンテンツを入れさせて頂いております。それからめくって17、18ページをお願い致します。豪商のまち松阪を楽しむ観光環境の整備、というところでは、観光交流拠点施設の完成イメージ図とともにですね、観光客の利便性や回遊性を高めるというような表現をさせて頂いているのと、旧長谷川邸の活用についても一部文言を修正をし、同じく歴史民俗資料館につきましても表現を改めております。横の18ページのグラフなんですけど、城跡という字が抜けてしましまして、跡という字を入れて松坂城跡周辺の観光入込客数と入れて頂き、その下の方※印のところも松坂城跡というふうに入れて頂きまして、周辺の地域の入込客数をここでグラフ化を入れてさせて頂いております。その下の

具体的戦略3) につきましては、まち歩きを楽しむ観光の推進、観光交流拠点施設に設置をされます、まち歩きアレンジメントサービスの説明書きを入れさせて頂いております。めくって頂きまして19, 20ページです。まち歩きの楽しみ方の提案というところで、豪商のまち松阪プロモーション事業で今年度作成しましたパンフレットの画像を入れさせて頂いております。右側の、遊びと健康をつなぐ観光振興ビジョンのうちの自然を楽しむ観光の推進の中は、主に山から始まりまして山の説明を入れさせて頂いているところで、途中の20ページの後半のところは、橿田川流域というところで表現を改めさせて頂いて、キャンプ場や体験施設あるいは流域のサイクリングやロードバイクのスポットと、という表現を入れさせて頂いております。これで山、川ときまして、海の表現がさらに海水浴やマリッジスポットにも適している遠浅で広大な干潟を持つ海の活用については、潮干狩りスポットとして、あるいは海の生き物、植物や鳥類の観察など、という表現をここに入れさせて頂いております。長期のところですね、豊かな自然とアクティビティを楽しむことができる環境整備という文言を入れさせて頂いております。22ページの黒丸、食のニーズ開拓については松阪豚を新たにここに入れさせて頂いております。松阪鶏焼き肉なんですが、焼きと肉の間にひらがなの「き」が入りますので訂正をお願い致します。23、24ページでございます。体験を楽しむ観光の推進というところで、修正を入れさせて頂いております。右側の交流と情報でつなぐ観光振興ビジョンにつきましては、中段また書きのところ、インバウンドのネームバリューとして松阪牛のところを表現と修正をさせて頂いております。

25, 26ページでございますが、交流と情報でつなぐ観光振興ビジョンの具体的戦略、地域ブランドを活かした観光の推進というところで、ふるさと応援寄付金を新たに項目で入れさせて頂いているのと、右側は地域の交流を楽しむ観光の推進というところで、先ほど課題のところでも出てきましたけども、交流都市との相互交流の促進というところで、ここで具体的にどことの交流がある、というところを入れさせて頂いているところでございます。27, 28ページをお願い致します。具体的戦略3) の多様な情報発信を楽しむ、というところで、いろんな項目を追加させて頂いて、丸の四つ目、市民に向けた情報発信というところで、ひとつ項目を追加、外国人観光客誘致に向けた情報発信というところで丸を追加しております。その下、学習を通じたというところですが字がとんでますが、修正させて頂きます。意見を頂いた学生を対象にそれぞれの年代の応じた取り組みが必要ではないかというご意見がございました。そういう表現に修正をさせて頂いております。右側のグラフについては、観光協会あるいは三重県の方からの数字でございまして、松阪を訪れる外国人の来館者数、および宿泊者数のグラフでございます。第3章は以上でございます。

委員長：ありがとうございます。今回第3章というところが、このコンセプトとビジョンの概要というところですので、今回のところ一番ミソな部分でございます。一番初めの3章の14ページは以前のビジョンをそのまま引き継ぐということでございますので、これは訂正ないかと思っておりますので、15ページ以降、特に16ページからの具体的戦略の部分ですね、この辺の赤字の部分を中心にご意見ご指摘を頂きたいと思っております。外国人観光客の件とか、いろいろ今までの意見を反映させて頂いておりますので、その辺も踏まえて見て頂ければと思います。

委員：18ページのグラフ、22年から25年くらいまでで倍増となって驚くべきことだと思うのですが、4ページの入込客数でいえば違うのでね、一体どこが、下に書いてらっしゃる施設だけではこの数字にならないと思うんですけども、その構成する部分と一番伸びているところを。

事務局：内訳ですよ。

委員：そうです。

事務局：など、って入れてあるんですが、4ページで見て頂きますと、4ページの真ん中頃に歴史民俗資料館ってございます、ここから10個くらいですね、松阪交流物産館

ですね、この数字でございます。

委員：やっぱり数字的に大きいのはこの松阪公園になるんですかね。松阪公園っていうのは、城の定義ですか。松阪公園の指すところはお城のエリア。

事務局：そうです。

委員長：23から24、25から26年はかなり増えてますね。

事務局：このデータはどこから松阪公園の。

事務局：こちらで決めたやり方で計算しています。松阪公園の駐車場の人数ですとか。

委員：松阪公園の駐車場の人数っていうのもこんなに駐車場停まりませんよね。

委員：御城番に行った人、記念館に行って、長谷川邸へぐるっと一人が周ってですね、多分これを4人とか5人で計算しているかもしれない。あまり人数にはこだわらない方が、増えてきているんだ、くらいの。

委員：確かに百名城と国の史跡に指定されたことはあるけれど。百名城は早くからなりました。

事務局：百名城になって、国の史跡に指定されて、その流れで増えていって。

委員：4ページの数字はもう一回きちんと精査してもらった方がいいかもしれませんね。宣長まつりでも、なんか変な感じしません？宣長まつり、500人？空白？やらなかった？天気はともかくやっていることはやっているし。ほんとにこの数はあれなんかもしれないけどちょっと不信感がありますね。

事務局：推計につきましては、三重県のデータから引っ張ってますので、正しいと思うんですが、言われたような空欄の部分ですね、松阪公園の激増した数字とかも説明がきちんとできるように精査させて頂きたいと思います。

委員長：県のデータ。

事務局：そうですね。県の中の松阪市のという。

事務局：一定の集計の取り方の全国的な基準があって、それに基づいて数字をひらって各施設から報告頂くようなかたちです。有料施設なんかだと有料の人数になるんですけど、そういうところでないところの範囲の数字をカウントする、とかいろいろルールがあって、正直これが何万人、どうやってわかるんやって話になるとそういうような推計の中で基準を築いて調べられるというかたちになっているのかと。

委員：それと松阪公園っていう表記、県が使っているんであればこういうことになるんだと思うんですが、松阪公園でいくんですか、それとも松坂城、城跡、このあたりどう？今松阪市は松阪公園、私たちも松阪公園内、松坂城内って言ってるけど、このあたりもどうですかね。

事務局：公園っていう言葉を残しておかないとわからなくなる。

委員長：集計のスタートが松阪公園でいってるから、よく統計である表現上のっていうことになるんでしょうね。

委員：スメールはまだあるんですかね。わんわんパラダイスと別個でまだあるんですね。

事務局：これですね、年度じゃなくて県の調査は年なんですね。3月まではスメールやってたんですが、4月からはわんわんパラダイスに変わっていたので、ちょうど。下もやまびこと波瀬駅は形態というか名称が変わったので。

委員長：松阪公園（松坂城跡）にするとか。急に23から24とか公園のところが増えているとか、その辺の要素がなんだったのか、その部分だけ見といてもらえればと思います。今、入込客数のいろいろ表現の問題とか、統計的のところやっていますが。

事務局：26ページなんですけど、歴史街道とまちなみの活用の中で、街道沿いの主要施設、まちかど博物館などを紹介とありますが、伊勢街道や初瀬街道やまちかど博物館ってありますか？

事務局：やっているところはあります。

委員：個人の家を日曜日に開放したり、たまに齋宮歴史博物館や三重県の総合博物館でまちかど博物館展というかたちでやっておるし、萬古焼も櫛田でやっておられるし、結構あることはある。

事務局：やってみえるならいいんですけど。

委員：でも一応まちかど博物館ってなっておるんですよ。看板か何かありますよ。

委員：22ページの食のニーズのところで、松阪鶏焼き肉や茶とあるんですけど、茶でいいでしたっけ。松阪茶の方がよいのでは。

委員長：松阪茶、ですね。

事務局：海苔も？

委員：松阪海苔のオーナー制度、って下に書いてありますね。

事務局：松阪海苔のオーナー制度とあるが、今もやっているのか？

委員長：今後そういう制度をやっていこうという長期のところですし。

事務局：整理します。

委員長：海苔のところは、またお願いします。

事務局：茶は茶のままでもいいのでは？

事務局：パンフレットも松阪茶で出ているのでいいのでは？

委員長：25ページ、この辺の表現はこのままで。

委員：日本橋で経営文化セミナーやっとして、日本橋周辺とのパイプも太くして行って、その意思というか方向性はここでふれてもらったほうがいいのでは。

事務局：16ページに詳しく書いてあるが。

委員長：16ページに載っているが、交流都市との相互交流の促進にも若干東京日本橋を載せてはということですね。

委員：観光の推進で来てもらうのもいいが、こっちも行って、交流という意味で入れておいた方がいいのでは。

事務局：23ページ、各種団体と連携した施設活用、の中でこの登山・ウォーキングなどを市民や市観光協会、観光事業者等と連携し、周辺の自然散策などのツアーを企画する、この登山・ウォーキングなどとですね、周辺の自然散策ってなんか一緒のような感じで、ここを市民団体や観光協会等と連携して登山やウォーキングなどのツアーを企画するとか、二つ一緒の文言のような気がするんですけど。豊かな自然を活用してつくる、とか自然を入れるのであれば、自然散策と登山・ウォーキングって一緒のような気がするんです。

委員長：このへんはまとめて表現するってことですよね。

委員：細かい言葉なんですけれど、たとえば23ページの旅行商品の造成で造成は、造成でいいのでしょうか。

事務局：造成はよく使います。

委員：そうですか。もう一つ教えて頂きたいんですが、25ページの松阪市原産地呼称管理制度、の官能審査はどういう意味なんですか。この漢字は？

事務局：これで合ってます。

事務局：松阪赤菜ですけどね、今のところは。

委員長：最後4章にいきたいと思います。4章の方事務局ご説明をお願いします。

事務局：第4章29ページ、使命と役割というところでございまして、前回の委員会でもご指摘をいただき、前回は1の項として、観光まちづくりの目指す姿というのがございまして、2の項に行政、および観光関係団体の使命と役割、というところでございました。それで、前回策定時の平成26年当時の観光協会の関係の事柄がそのまま載っておった感じで、それを微修正したかたちで前回お示しさせて頂いたんですが、そのあたりを大幅に削減させて頂いて、第4章は使命と役割というところのみの表現にさせて頂きました。したがって、文章的には29ページと30ページの上段までというところでございます。何か図示した方がいいのでは、というところで、市民、行政、観光協会、関係団体、事業者というところで、図も入れさせて頂いた次第でございます。以上でございます。

委員長：こちらは前回の会議の時に、使命と役割の部分で前回のビジョンのときに観光協会のことについてそのときの状況もふまえていろいろ細かいこと書いてたんですが、

委員長：そのへんは今回の場合はいらないのでということでも2番の行政、および観光関係

団体の使命と役割をカットして、使命と役割ということで、このいま29ページと30ページの半分くらいのところまで、というところで事務局の方で皆さんの意見も踏まえてつくってもらっています。この30ページの真ん中のところにはちょっと図示しているものもあるので、このへんもまた皆さんにご意見ご指摘等を頂ければと思います。

事務局：図のところちょっとずつ、かぶせては。

委員長：図のところ、重なってみんな連携している、というふうに。観光協会のからみで出てますけど、竹川専務いかがですか。

委員：下から3行目の段の、観光事業者と観光に関連する事業者は違うんですか。

事務局：一緒ですね。整理します。

委員：観光事業者によって組織される、って書いてありますけど全然関係ない人も入っている。観光振興を意図している、とか。観光事業者のみで組織されているものではないので。観光事業者はとってもいいのでは。

委員長：このような中、観光振興におけるさまざまな事業を実施しながら、観光に関する事業者・団体の取りまとめ役ともいえる「観光協会」は、っていう表現ですね。

事務局：29ページ、その上の、特にからの総合的なプロデュースを行うことを求められています、の求められている人らは誰なのか。主語っていうか。プロデュースを求められている人らは。

委員長：これだとどっちかという、地域的にそういうふうなプロデュースすることが求められているという。

事務局：地域の中で総合的にプロデュースを行えるようにならないとだめだよ、っていう中で、観光協会とか市民もっていう。

委員長：プロデュースするところが必要になっています、っていうことで。

事務局：地域内の民間事業者、団体ではないわけですか。地域内の民間事業者、団体が地域で総合的なプロデュースを行うことを求められる、っていうわけではないんですか。

委員：観光振興を行っていくために、こういうことが求められているっていう取り方でおかしくないですか。

事務局：観光振興のために、求められているっていう。

委員：観光の方からいくと行政としての松阪市ってしばらくしてしまくと、観光があんまりたってかんのですね。要するに外からくるお客さんは、松阪っていったって行政でどこの線が引いてあるかって全く関係ないので。さっきの話、飯高へ来た人が奈良へ、逆に奈良から来ても松阪市へ来たりあるいは多気郡へ行ったり、もっと神宮の方へ抜けていたり。漠然と地域っていうのは。

事務局：これ地域にある民間事業者、団体っていうのは観光資源ということで書いてある？

委員：そもそも松阪市観光振興ビジョンって言うので、うちも松阪市観光協会なんですけど、観光協会の構成メンバーは松阪市外の人たちもたくさん入ってもらっているので、名称は松阪市観光協会なんですけど、エリアとして松阪周辺も含んだエリアとして観光協会も考えてはいるんですね。地域内の、といってしまくとちょっと。限定してしまうと、松阪市内かな。

委員：ここの地域で、っていうのと上の地域内の民間事業者ってありますけど、この地域内のっていうのは省いた方がいいのでは。例えばこの会だって近鉄さんもいらっしゃるし。ここでこういうふうに限定しちゃわない方がいいと思うんですよね。

委員長：そもそも松阪市の観光ビジョンっていうことであるからそれに関わるとる人がっていう意味で。

事務局：例えば観光ニーズは多様化しており、観光振興を促進するためには民間事業者、団体、さらには歴史文化など、云々というふうに、主語も明らかにしてってことでもう一度整理させて頂くかたちで。

事務局：総合的なプロデュースを行うのは、どこがするんですか？

事務局：そういう機能が必要だ、という。観光振興を促進していくためにはプロデュースを行えるような機能が必要だということ。

事務局：そういう機能は観光協会？

委員：それは市役所さんとか、観光協会とかあるいは商工会議所さんとか。

委員長：この会とか。

委員：そういうことですよね。いろんな要素。

委員長：そういうところが、どっかの団体なんかそういう組織も必要になってくるのかとか、そういうのも含んで。

委員：我々の日常業務としては、例えば鳥羽の業者さんを紹介したりもしますし、逆に向こうから松阪を紹介してもらってこのお客さん松阪行きますからよろしく願います、みたいなこともあるし。

委員長：そのようなプロデュースする仕組みづくりが必要ということですよ。今、DMOとかいろいろ県内でできてますし。

委員：戦略性が必要なんですから。

委員：行えることが求められているのではなくて、行うことが求められている。

委員長：今言ってもらったみたいに行う、ですよ。ちょっとその辺表現また。図とかも含んでよろしいですかね。あとちょっとざくっと1章から4章までいきましたが、全体的にも何かあればお聞きしますが。

委員：資料の当日配布はやめて下さい。

事務局：申し訳ございません。

委員：28ページの棒グラフあるじゃないですか、棒グラフで大体わかるんですが、できれば構成比がわかるように円グラフみたいなものもあると。計算ができないので。中華系が多いんだろうな、どれくらい多いのかと。

事務局：表紙はこれなんですか？

事務局：仮です。何か良いのがあれば。

委員長：当日配布ということもあるので、ご意見があれば事務局へ細かいことも含めて。

事務局：今日頂いたご意見で修正したものを送らせて頂いて、そのときにご意見を頂ければ。

委員長：わかりました。ちょっとそういったところで修正したものをもらって意見あれば事務局の方へ言ってもらおうということで。またあとのスケジュールのところでもお話が出てくるんですけど、これをうけて1～2月にパブリックコメントを頂いて、3月にまた委員会で最終決めてもらうということになりますので、そこに関してはまた、よろしくお願ひしたいと思います。それでは事項書の3番ですが、これ実はこの前の会議から出てました観光交流拠点の名称についてというところで、実は私も事務局の方に宿題頂いてたのに何も言ってなくて申し訳なかったんですが、名称についてということで皆さんにまたご協力頂きたいと思いますので、これについて事務局の方でご説明頂きたいと思います。

事務局：別紙の方で観光交流拠点施設本館施設名称についてというA4 1枚ものを配らせて頂きました。こちらは前回施設の概要とヒントみたいなものを提案させて頂いたところなんですけど、もう一度ご提案させて頂いた中で、できましたら今回3つくらいに絞り込んで、次回の最終の委員会の中で案を決めていけたらな、と考えております。こちらの資料でございますが、機能としてのキーワードということで、まちなか、ガイド、ガイドダンス、まち歩き、周遊、回遊、見どころ、ツーリズム、交流、地域活性化、というようなキーワードの中で、事務局ベースで考えさせて頂いた館名の候補、いろんな考え方ございますが、外から来た方が何の施設かが一目瞭然で分かるような名前が望ましいのではという考えからのもとに、名前を候補として挙げさせて頂いたものです。目新しい名前ではございませんが、わかりやすさということを基本的に提案したものでございます。また参考として、松阪市観光情報センターであったり、付近の施設にはこういう施設がありますよ、というようなところを挙げさせて頂いております。

委員長：今事務局から説明があったとおり、キーワードと名前の候補と参考が出てまして、このへんもふまえてみなさんからご意見を頂ければと思います。先ほど言っ

たように候補を3つくらいに絞って次回で決めたら、というのが理想でございますので、このへん皆さんまたご意見を頂きたいと思います。

事務局：前回欠席だったので確認ですが、愛称は募集しない、ということで行くんですね。

委員長：公募はしないということでもよろしかったですかね。

委員：候補の中で、下の方は松阪がひらがなで、ビジターセンターはカタカナで書いてるんですけど、最近海外のお客さんが増えてきて、特に中華系のお客さんが増えてきていますとですね、漢字が書いてある方が非常にわかりやすい。ひらがなのまつさかでビジターセンターカタカナで書いてしまうと、外国の人というか中華系の人の方にはさっぱりわからへん、ということもあるので、最低観光というくらいは漢字で表示しといた方が、当然下に英語の表現も並べて出すとは思いますが、ちょっとそうしておいて頂いた方が松阪市観光総合案内センターって僕らからすると堅いような感じがしてしまうけど、中華系の方には意外といいのかと思うのですが。愛称は募集しないということなんですけど、外に向かって外から来た人に情報発信していくとこなので、市内の人だけがわかった愛称はあんまり意味ないかなと。ちょっと施設の名称の関係で、下の参考のとこなんですけど、前から気になってるんですけど松阪商人の館と旧長谷川邸というのがあるんですけど、松阪商人の館って旧小津邸ですよ、そのへん整合性がないような。松阪商人の館で、片っぽは旧小津邸、片っぽは旧長谷川邸ってもってく方向に持ってく方が、ここで話すことではないかもしれませんが、いいんじゃないかなと。

事務局：今まで当たり前のように思ってましたけど、確かにそうですね。両方とも松阪商人。

委員：前から気になっとなつたんです。ここだけは旧長谷川邸になつとって、片っぽは松阪商人の館で小津さんの名前が出てない。ひとつしかない場合はそれでもいいんかなと思うけど。すみません、余計なことを。

委員：施設名はよっぽど考えて頂かないと、電話で問い合わせがあったときに、駅前のほうなのか、どっちなのか混乱してしまう恐れがあるので。愛称を付けないということですが、何か識別しないと、観光情報センターと総合案内センターなりビジターセンターなり、って言われると、ひょっとしたら受け手電話側の方も混乱してしまう恐れがあるので、なんか識別できるような名前がいいのかなと思いますけどね。難しいです。松阪の人だったら駅前と本町って言った方がわかりやすいですけどね。おそらく松阪の人でも混乱すると思いますよ。

事務局：観光情報センターの名前を本館とすることでそこも検討するっていうことはないんですか。

事務局：市の施設なんで、直すっていうことになると思います。

事務局：観光情報センターってすごくわかりやすいんですけど、これで観光総合センターとかいろいろ館長言われたとおりでどう違うんや、とわかりにくい話になってきた時に別館本館っていう内訳もあるのではと。

委員：本館別館というより、場所がわかるような表示がいいと思うんです。外から来た人に。駅前っていうのとお城のそばっていうか。

事務局：伊勢市みたいなのは外宮前とか、わかりやすい名前をつけてますよね。

委員：ビジターにしていればわかりやすいと思いますね。

委員：この中では松坂城の周辺施設の中に入ってますからね、エリアでは。

事務局：豪商のまちって入れてほしいんですけど。

委員：脱線なんですけど、エリアの名前というのはあるんですか？松阪市の方は本町、とか言うんですか？観光拠点の名前が決まっても点なんですよね。でも実際はこれできて、観光拠点が集積してる状態になって、やはりまちなみという中でもここに行ってもらったらなんかあるんですよ、と沿線の例では、奈良に「ならまち」っていうのがあって、駅から15分くらい歩くんですよ。ですが、昔のまちなみが残っている場所なんですと、行って行く価値があるんですよみたいな、面としての名前がありまして、ならまちっていうのは行政上の名前じゃなくて愛称的なかんじなんです。そういうものなら行ってみようかなと、奈良もならまちが一定の知名度

もできたので、北のほうをを「きたまち」っていう言い方を言い出して、「きたまち」ってなんかあるのかなみたいな感じで、個別具体的なものはそこと合わせて出していくんですけど、これだけいろんなものが集積してくると、エリアの名前みたいなものがほしいなという感じがしています。豪商のまち松阪というのはすごくいいネーミングだと思うんですが、まちの名前はちょっと違うのでもいいのかなと、もっと親しみやすいようなのがあればいいかなと。せっかく城があるのでそれに関連した名前とか。

委員長：住所は魚町？

事務局：住所は魚町です。

委員：背割で分かれているわけではない？

事務局：駐車場は殿町になります。

委員：三井家は本町、できるのは魚町。

事務局：ちょっと歩いたら本町、ちょっと歩いたら殿町、縦の線になるので。縦の線っておかしいですけど。

委員：産振センターと今度できるとこの間が背割なんだ。魚町センターにしたら？

委員長：魚町別館とか、魚町って言った方がわかりやすい。

委員：外から来る人を対象にしているので、魚町って言われてもって。まだお城とか豪商っていうキーワードがあった方が。

事務局：これはあくまで例ですけど、総合にしておいて下の駅の方を松阪駅（駅前）観光センターに変えてしまっただけで差別化をするという。

委員：私たちが電話するとき、そういうふうな呼び方になりますよね。どっちの方っていうふうになってしまいますよね。

事務局：インターネットで調べるときも、松阪観光って押しますよね。そのときどこにヒットしていくんですかね。

委員：公立？民間？片っぽは民間？一社は一般社団法人で。

事務局：施設に関しては今の段階では原則的には指定管理をしていく、ということで考えておりますので、今の時点では決定はしてない。

委員長：単純なようで難しいんですよ。

委員：個人的なことでもいくと、たとえば豪商のまち松阪市総合案内センターとか、豪商のまち松阪市観光交流センター、ニックネームを付けないのでは、頭にそれを付けた方がいいのでは。

事務局：豪商エリアであることは間違いないので。

委員：内容がどこまで松阪市全体を案内するののかも関わってくるし、どういう性格の施設にするのか。例えば食事をしたい、泊まりたいという人が訪ねてけばそういうのがメインなのか。あくまでも情報発信とかまち歩きの拠点として、まずあそこで集まってもらいましょうよというのか。方向性としてはどっちかに何らかの役割分担をした方がいいような気がしますね。前も、ここでもまた別のところでもお話ししておるみたいに、来年、武四郎の関係でずいぶんたくさんの方が来られた時にやっぱり行き方がわからないとか、市内全域のことを、高見山の方を聞きたいとか、というようなことになってくるとやっぱり情報っていうものをアンテナショップみたいなものを、各地域のアンテナショップみたいなものも本当は必要だろうと思うので、そうなってくると単なるまち歩きではないのかなと思うし。松阪そのものが観光的に見て豪商のまちというならそれでいいと思うんですけど。どういう性格に、ほぼ内容面では決まってるわけですけど、これから売り込みとしてどういうふうな売り込み方をしていくのか、というのは考えると施設の名前もおおのずと絞られてくるかもしれませんね。駅前の方で聞いたらこっちやって言われた、おいしい焼肉屋はどこや、駅前の方で聞いたらこっちやって言われたし向こう行ったらあっちやって言われたっていうんでは。

委員：観光協会なのでどこの焼肉屋がうまいのかって聞かれてあそこは美味しいですって答えませんがね。

委員長：豪商のまち松阪を付けるのがどうなのかっていうのが一つ、全く付けずにシンプルな方でいくのかですね。

事務局：2階の展示は、三井さんの？変わりましたっけ。

事務局：変わってないです。基本的には三井さん、参宮街道。

事務局：街道をメインにしていく。下は観光案内。

事務局：そうですね。街道全体の展示をしていきますので。

事務局：江戸時代の参宮街道が華やかな頃の展示をされるんですか？

事務局：主なものは街道であったり、三井であったりということだと思うんですが。

事務局：松阪全域のマップも作りながら情報は流していきます。

事務局：ある意味、まちなかを中心にしながら、総合的な案内をしていくという位置づけではあります。先ほどの食という話になると、食べ物屋とか、お土産物屋とかそういう買えるところであるとか、休めるところ、っていう案内も出てくると思うので。まち歩きの出発して頂ける情報がここにたくさんあって、来られる方にいえば松阪の中心市街地だけじゃなくて今から飯高へ行きたいんだ、そういうことも相談できる。

委員：それから、直接名称とは関係ないようなあるようなんですが、今松阪のまちのなかで、ある程度グループを作ってまち歩きを推進していこうというグループが動き始めているんですか？まち歩きを楽しもうというグループ、まあ動き始めていることを聞いて、まちをガイドするのはボランティアガイドさんたちがいるけど、一人二人が楽しんで歩きましょうよ、勉強しましょうよじゃなくて、もう少し組織だったかたちで今動きつつある、ということはちょっと聞いておるんですけど、それがどういふかたちのNPOを立ち上げるか、そういう話は何も聞いておられませんか、直接は。もしもNPOなんかを立ち上げたりするなら当然こことも関わりが出てくるかなというふうにも。

事務局：まちのいろいろ、建造物やら街の再発見を一生懸命。

委員：ここもそこに入るんですよね、エリア的には。

委員：観光振興ビジョンの8ページのところの上に、思いっきり豪商のまち松阪を観光PRや誘客活動の前面に出し展開していくことが必要です、ってあるんで、さっきの豪商のまちって付けるのはこれにあってるんじゃないかなと。

委員：それと9ページのまちなかの魅力を一覧できる環境を整えるために観光交流拠点の整備を進める、とあります。豪商のまち松阪市まちなか観光交流センターとか。

事務局：指定管理者が決まったら指定管理者が愛称を後で募集するっていうことはあるんですか？

事務局：愛称でしたら条例上のもではないんで。

事務局：あまり長いと、飯高の総合案内施設波瀬にしてたら今まであんまりわからなかったんですけど、波瀬駅に変えたら1年ですけど、結構みなさん波瀬駅、波瀬駅、っていうてわかりやすくなったっていうことなので、やっぱり愛称って大事かと。

委員：地元の人が言うあれでしょ。

事務局：元々はそうでしょうね。

委員：外から来る人を対象にしとるやつやもんで。愛称の中身にもよるけど。本当に外の人パッと聞いてパッとわかるんならいいけど、地元の人だけがわかるような愛称にしてしまうと。

事務局：魚町ってしたら、よそから来たら魚町って何？って。

事務局：豪商のまちって最初にきちゃうと、ヒットしてこない可能性がありますね、インターネットで。検索かけると。

委員：豪商のまちってあったらそんな名前のとこないから何だろうって思いますけどね。行ってみようかなって。豪商の何かあるんだろうなと。

事務局：駅前で降りて、まず情報センター行って、どこに何があるんかを見て、ここに豪商のまちなかに、っていうのがあれば、そこに行こうかっていうふうになると思いますね。逆に言うと、松阪観光交流センターっていうふうにあっても駅で降りた人

って、中に歩いて行っちゃうのでそこに寄るかどうかな。駅で降りてお城見たいって思っている人たちはいきなり行きますから。

委員：おそらく新しい観光拠点は車で来る方がかなりのウェイトを占めるやろなと思うんですよ。駅で降りる方は、知りたいなっていう人は既存の今のところに寄ってくやろなと思うんですけど、7割方は車でいらっしゃいますので、ターゲットはそっちを基本に考えて組み立てていく。

事務局：基本、城や長谷川邸へ駅から来られる方は、観光交流拠点があつたら寄っては頂けるかなと思いますので、とりあえずそこへ駅から誘致してそこの施設へ行って下さい、そこから近くにありますので、というような誘導の仕方の方がわかりやすいのでは。

委員：半分は例えば2時間くらい時間があるので、どういうところ見たいのっていう質問ですが、大体一緒くらいのパーセンテージで美味しい肉食いたいんだけど、どこらへんにレストランは集中しとるんやとか、そういう話が多いです。食べたい人は金額的です。安くて食べたいけど、どのエリア？っていうと駅裏のエリアはこんな店集まってますよ、とか。いくらでもいいんやっていうと中町の界隈のあたりとか。

委員長：時間もせまってきましたので、3つくらい候補に絞れば、ということで、今出たのが、「豪商のまち」、を冒頭なのか後なのかで入れる、「まちなか」、っていうキーワードを入れるのか。たとえば松阪まちなか観光交流センターとか、豪商のまち松阪観光交流センターとか、そのへんが候補なのか。そのへんの部分でしぼりこんで次回ちょっと決めて頂くというようなイメージで事務局さんどうでしょうか。今くらいの選択で。まちなかと豪商のまち、の入れ方の問題にはなるかなと思うんですけど。

事務局：観光というワードはやっぱ外せないと思いますか、それか外してもオッケーだと思いますか。その点だけ。

委員：僕に入れてほしい、漢字で入れといてほしい。

委員長：観光は絶対いるでしょうね。今のはあくまでまちなかと豪商のまちっていうのは、観光交流センターがあつてその観光絶対ありきという話で。

委員：それがないとほんとにぼやけてしまう。市民はいいかもわからんけど、何度も言いますが、外から来る人が主なターゲットだと思うんで。海外も含んでですね。

事務局：松阪は漢字で、ということですね。

委員：そうですね。その方がええかと。松阪に来とるんで、松阪ってわかるかと思うけど。ひらがなより漢字の方が中華系の人にはすっと入るやろな。

事務局：中華系の人にとっては、松阪っていう言葉と観光っていう言葉があつたら何か大体わかるかと。

委員長：それが漢字で。

委員：それの方がありがたいなと。ますます増えてくると思いますので。

事務局：英語併記はいくつも多言語で並べるわけにもいきませんので。

委員：多言語化って、表示をいろんな国の言語でという話がありますが、僕は英語だけでいいと思うんですよ。ややこしくなってしまうし、スペースの問題もあるし、大体僕も観光の1階で話しとるんですけど、大体英語で通じますね。なめらかにできなくても英語表記があれば、大体読んで頂けますし、漢字とアルファベットがあればほぼほぼ韓国の人にしてもタイの人にしても英語圏、中華圏じゃなくても日本に来る人なら大体わかってもらえるんで、無理してハングルを入れるとか、タイ語を入れるとかそんな無理せんでもいいんじゃないかなと、最近経験で思います。

委員長：今言ってた話で、「松阪」と「観光」は漢字で入れて、「豪商のまち」とか「まちなか」は組み合わせの問題になってくると思うんですけど、そういう感じでよろしいでしょうか。また事務局の方へこういうのがあれば、送って頂くということで。そしたら事項については以上でございます。

事務局：本日はお忙しいところありがとうございました。委員長よりお話しがあつたように、まずは今日ご意見を頂いたものを入れさせて頂いた修正案というのを作らせて頂いて、ご送付させて頂くという形で考えております。その後ですね、事項書の方にも

書かさせて頂いておりますが、1月から2月くらいの間で、パブリックコメントを入れさせて頂く。またその結果をもって、反映したものを委員の皆さんに事前に配布できるような形にさせて頂いて、そのあと、委員会を開催させて頂いて、そこで最終的なビジョンというものを作らせて頂くようなかたちで進めさせて頂ければと考えております。次回の日程ということで、決めさせて頂きたいのですが、3月くらいの時期に開催をさせて頂きたいと考えております。3月は議会等入ってきてますので、その間で、皆さまのご都合を聞きながら決めさせて頂きたいと考えているのですが。手続き的にはできましたら、3月の15日の遅くとも1週間くらい前には遅くとも開催したいと考えておまして、2月下旬から3月上旬のあたりの日でと考えております。

～日程調整～

3月1日（木）10時～

事務局：皆さん、お忙しいところ本当にありがとうございました。

委員長：それではこれで終了ということで、今日は長時間、2時間ほどになりましたが、今回は3月1日ということで、それぞれビジョンの話と名称の話、何かあれば事務局の方へ連絡して頂くということでありがとうございました。